

## 11月は本と触れあう・・・

11月は、「本を読む」を目標に取り組みました。「秋の夜長は、読書が一番」だと思います。私は、31歳の長男を筆頭に3人の子どもがいます。上手く子育てはできませんでしたが（忙しさにかまけて手をかけられないことが多く、今となっては本当に反省しています。）、就寝前の読み聞かせだけはずっと続けてきました。書店と契約し、毎月2冊の本を子どもの名前入りで届けてもらうようにしました。子どもたちは、自宅に届く本を心待ちにしていました。布団の中でその本を読む時間は、心寄せな時間でした。子どもたちも楽しかったでしょうが、親である私にとっても忘れられない大切な時間となりました。私にとって大切なその本の中から、三岳の子どもたちに、3冊週替わりで、紹介してきました。仕掛け絵本など、もうぼろぼろになっていますが、「私この本知ってる、好き」と言って読んでくれました。本好きに育ってくれるといいなあと思っています。子育ての時間は、その時は、毎日が慌ただしく大変ですが、本の読み聞かせをされてみませんか？本当に母親である私の方が癒されましたから・・・荒平家に並ぶ多くの本は、今、孫の湊人が読み始めています。

## 本物は、本当に子どもの心に響きます・・・

11月は、行事の多い月でした。毎週のようにお楽しみ行事が続き、大変ではありましたが、子どもたちの心に残る行事になりました。本物の力は、本当に素晴らしく、見なさい・聴きなさいと言わなくても、子どもたちの心しっかりとつかみ、離しませんでした。そして、成長させました。

「山鹿中学校区音楽会」三岳小・平小城小が閉校するため何とか最後に出演できるようにと実施していただいた音楽会でした。山鹿中学校の広い体育館で、多くの小学生と中学生の前で、相当緊張したと思いますが、堂々と三丁目の夕日を演奏し、校歌を歌いきることができました。担当の上田先生が、最後に流された涙が忘れられません。

「三小道徳交流授業」コロナ禍のため1学期から延期されていた、山鹿小に出向いての座学での交流を実施しました。全てのクラスを見て回りましたが、三岳の子どもたちはとても緊張していました。その中でも、頑張っって手を挙げたり、発言したりする姿が見られたことは大変うれしいことでした。最後にみんなの顔を見て、ほっとした表情に一瞬で変わっていた姿が印象的でした。

「小さな秋のコンサート」教頭先生のお子さん「日向子さん」のバイオリンとお友達の「茜さん」のピアノの演奏を堪能した1時間でした。これは、教頭先生が一番うれしそうでした。満面の笑みで、本当に幸せそうなお父さんの顔になっておられました。子どもたちは、本物のバイオリンを見るのは初めてで、一生懸命集中して聴いていたのが印象的でした。

「三岳小・平小城小合同ユニバーサル講演事業（演劇鑑賞）ヘレン・ケラー～ひびき合うものたち～」これは、両校閉校の年で何とか思い出に残る物をとってお声かけをいただき実施できた文化庁の事業です。東京演劇集団「風」が、朝早くから準備され、三岳小の体育館に本物の舞台が作り上げられました。一步踏み入れただけで、演劇の世界に引き込まれました。三重苦のヘレン・ケラーに、身体ごとぶつかり合い、指文字を教え、言葉があることを伝えていくサリバン先生。互いにひびき合い、変わっていく姿がとても美しく見えました。本物に触れた貴重な時間でした。

「山鹿市小学生親善球技大会」昨年度から、平小城小と合同で6年生が参加しています。オムロンの方から2回指導を受け、当日も審判をしていただきました。感動したのは、試合の中で子どもたちが成長していく姿を見たことです。キーパーの子が何回もファインセーブを繰り返したり、跳ね返ったボールをくり返しとってシュートしたりと、その成長に感動しました。子どもが成長する姿が本当に美しいと感じる幸せな時間でした。

※この他にも「キラキラ秋祭り」「読書まつり」等、行事が盛りだくさんでした。ご協力いただいた保護者や地域の皆様大変ありがとうございました。また、三岳校区社会福祉協議会からキラキラ秋祭り補助費3万円・演劇鑑賞代補助費として1万円、他に公民館からもち米を学校給食用や児童・教職員へ頂いております。大変ありがとうございました。



